

# 復興支援フォーラムニュース No. 90

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 ([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com))

## 第87回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

第87回ふくしま復興支援フォーラムを、2015年3月18日に開催しました。

三浦浩喜氏（福島大学教授）から、「OECD 東北スクールの実践と若者たち～ふくしまから新しい教育の創造～」についての報告がありました。15人が参加して、活発な質疑応答がなされましたが、会場で文書提出されたご意見等は、以下の通りです。

~~~~~

★ 「OECD東北スクール」プロジェクトを通じて成長した生徒たちが、東北の復興・再生、ひいては日本の発展の担い手になるものと確信した。第2次、3次のプロジェクトがあるとのこと、期待したい。（R.N）

★ 今日の話聞いて、大人の方が試されていると思いました。大人の意識改革が必要と感じます。願わくば、今日のOECD東北スクールで、スキル・能力を身につけ、子どもたちが既存の考え方の大人たちによって、潰されることのないようにしてほしいです。（Y.I）

★ 想像していたより遥かに大規模なプロジェクトであることに驚かされた。若い世代が圧倒するような周囲の力に負けずに、若々しくたくましく乗り越えていくことに感動した。問題を多面的に考える上で、きわめて有益な報告であった。（S.I）

★ 先生と・学生さん達が、自分の力を大きく乗り越え、大きな自信を得たのではないか。9個のKPI評価は、いずれも重要と思う。さらに復興を考えた場合には、相手の立場・意見を聞く力、共感する力などが重要な評価項目になると思われた。教員側が二つに分かれ、その中で、なかなかワクを破れないグループがいるという事だった。今後を考えた場合、そうならざるを得ない教育現場があると思われ、その点を含めて考えないと新しい教育はできないのではないかと思います。

★ 自分の子供も、現在高一で、OECD東北スクールの生徒さん達と同年代です。子供の成長には、大人の対応もとても大切だと感じました。その他のこういう活動に全く興味のない多くの子供達には、どう働きかければ良いのでしょうか。復興にかかわらない多くの子供達にも、目を向けて欲しいと思います。（A.S）

★ OECD東北スクールの経験が、世界（OECD）と日本での教育改革（教育内容改革）に、直接つながっていることが、よくわかりました。（H.N）

★ 被災地の三県から選ばれた生徒達が、外国等の支援を受けて、復興活動のあり方等、将来へ向けての得がたい経験を活かす機会があったことを知り、今後の教育のあり方に対して、どのように影響があるのかが興味深く拝聴しました。（K.F）

★ 原発関連では暗いニュース、見通しのない未来に折れそうな心持になる中で、このような大きなプロジェクトの中で成長した子ども達に希望を見出すことができました。異質なものに触れさせ、異質なものを受け入れる人間に育てていくことの大切さを学ぶことができました。とても楽しく聴かせていただきました。（S,N）

## 原発事故と予防衛生

田中 正敏

<福島県立医科大学名誉教授、ふくしま健康・省エネ住宅推進協議会会長、  
医師（厚生大臣；予防医学、環境衛生）、一級建築士（建設大臣；建築  
学会の福祉施設小委員会委員）、労働衛生コンサルタント（労働大臣；  
産業衛生学会の許容濃度委員会顧問・温熱環境研究会世話人）>

### 1. 原発事故について

東電からの処理工程表がだされているが、依然として放射能漏れは続いている。海に放射能汚染水が流れ込み、世界からも非難を浴びている。生物濃縮については、食物連鎖によって海中の無数のプランクトン、微生物が放射能に汚染され、それを餌とする魚が汚染され、汚染の連鎖はつづく、半減期の長い放射能の場合の環境影響は計り知れない。

### 2. 放射線による障害について

放射線の不適当な使用によって急性・慢性の放射線障害をひき起こすおそれがある。

放射線による生物学的作用；、曝露後数週間以内にみられる早期影響と、長い潜伏期を経て発生する晩発効果および遺伝的な影響がある。

早期影響；大量照射を被った場合に感受性の高い造血組織、生殖腺などの障害。

急性症状；頭痛、疲労感、嘔吐などの放射線酔いや発赤、紅斑、脱毛、水泡、潰瘍などの皮膚症状。

晩発効果（少量を長期間に渡って浴びた場合）；皮膚癌、白血病、再生不良性貧血、白内障、寿命の短縮。

遺伝的影響；遺伝子の突然変異や染色体異常を起こす。

新生能や分裂能が高く幼若な細胞ほど感受性が高い（ベルゴニー・トリボンドの法則）；臓器ごとの感受性は、造血組織、胃腸、生殖器などは強く、皮膚、血管、眼などは中等度、筋肉、骨、脂肪組織、脳・神経組織、肝臓、腎臓などは弱い。

### 3. 職場での健康管理

血液に関する検査、白内障の検査、皮膚の検査などの検診の実施。定期健康診断は6カ月以内ごとに1回行なうが、白内障と皮膚の検査は3カ月以内ごとに1回行なう。

発癌物質など特定物質に、ある期間曝露された労働者；離職時または離職後に、都道府県の労働基準局長より、健康管理手帳の交付を受け、指定の医療機関において公費で特定の健康診断を受けることができる。

### 4. 事故対応

チェルノブイリ原発事故後、原子炉を石棺で覆い、立ち入り管理区域。今後も石棺の大規模の補修が必要。

今回の原発処理では「水棺」作業行われており、作業工程は施設内部から始められている。施設内部からの処理作業とともに、建屋・原子炉の外部からの作業を進める。原子力関係の処理者のみではなく、土木・建築分野の力が必要。原発建屋外部からコンクリートなどで、水汚染に対してはプールのようにして囲い、空気汚染には屋根をつけ巨大な原子炉の墓場を建設する計画を。

自然の厳しい作業環境から働く人々、暮らす人々を保護し、そして環境汚染の防御からも必要。

## 5. 超高齢社会、そして、これから

ニュージーランドは日本と同様に地震の多発地帯。いずれの地震でも復興には、莫大な経費と長い年月が必要。クライストチャーチ市の映画館では地震のドキュメンタリー映画「When a city falls」が上映、2010年9月に続いての2011年2月の2度にわたる大地震のドキュメンタリー。「二度あることは三度-----」とやら、日本でも地震、余震が続いている。

仮設住宅には高齢者が多く、以前は農作業で身体を動かしていたが、今は家に籠りがちで日に日に「身体が鈍る」。老夫婦世帯が多く、若い世帯は子供の学校や仕事の関係から別々の生活で、先が見えない。自治体による、村・町・市立の「公設民営」の老人ホーム、高齢者の福祉施設が必要。入居費などは国民年金と支給金で賄えるような施設が将来に渡って必要。

水、電気のライフラインは生活に一日も欠かせない。チェルノブイリ事故の影響を受けたスエーデンでは今ではエネルギー源の多くを水力と木材に依存する循環型社会を形成。日本では上水道は市町村経営が原則。河川を利用した発電開発により、電力を市町村経営として、環境共生・循環型とする社会が望ましい。東北地方の水力発電量は現在10%台と少ないが、豊かな河川、山林があり、今後のエネルギー政策を見直すチャンス。

### 参考・引用文献

原発事故と予防医学、日本医事新報、No. 4547、32-34、2011.

福島市における応急仮設住宅の居住環境の現状と対策、日本雪工学会誌、Vol. 29、No1、58~61、2013.

福島県内の仮設住宅の居住環境の現状と対策、日本建築学会、福島原発仮設住宅報告書、2015（予定）  
教育機関を中心とした建物内外の放射線環境の実態、第20回空気シンポジウム、東日本大震災対応緊急シンポジウム、日本建築学会、東京、2011. 8月

震災関連住宅における温熱・空気環境に関する調査 第7報 — 温熱環境についての福島の実態調査結果 —、シンポジウム「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり」日本建築学会シンポジウム、東京、2012年3月.

シンポジウム「震災関連住宅における温熱・空気環境の実態と健康影響に対する低減対策」震災関連住宅における温熱・空気環境の実態と健康影響に対する低減対策シンポジウム実行委員会、フォレスト仙台第2フォレストホール、仙台、2012年7月6日.

仮設住宅の室内気候と健康、東京、バイオクリマ研究会、2012. 3. 10

夏季・冬季の仮設住宅の環境、—東日本大震災後の原発事故による福島県での応急仮設住宅の現状—、52回日本生気象学会大会（米子）、日本生気象学会雑誌、Vol. 50、No. 3、41、2013.

東日本大震災による仮設住宅の冬季の室内環境、53回日本生気象学会大会（横浜）日本生気象学会雑誌、Vol. 51、No. 3、31、2014.

Thermal Environments in a House in Winter in Fukushima, in the North-East Region of Japan, 19th International Congress of Biometeorology, December 2011, Auckland, New Zealand

Physical Fitness and Aging of Forestry workers in The north-east area of Japan—With reference to health problem of forestry workers in the Fukushima area, Japan—、30th ICOH March, Cancun Mexico, 2012

Indoor thermal environment of temporary houses after great east Japan earthquake, CLIMA 2013, 11th REHVA World Congress, Prague, Czech Republic, June 2013.

Socially Responsible Management of Thermal environment, especially hot environment, Universidad 2014, 9no Congreso Internacional de Educacion Superior, Havana Cuba, February 2014

~~~~~  
【予告】第89回フォーラム 2015年4月8日（水）18:30～20:30  
「よりそいホットライン1千400万件のアクセス分析が示す被災地の今と日本の今」  
報告者：熊坂 義裕 氏（社社会的包摂サポートセンター 代表理事）  
会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室3  
~~~~~

【予告】第90回フォーラム 2015年4月23日（木）18:30～20:30  
「双葉郡の小中学校の『ふるさと創造学』—避難校に広がる総合学習の試み」  
報告者：中村 秀夫 氏（ジャーナリスト）  
会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1  
~~~~~

【予告】第91回フォーラム 2015年5月14日（木）18:30～20:30  
「生協組合員（住民）目線での被ばく調査について」  
報告者：野中 俊吉 氏（生活協同組合コープふくしま専務理事）  
会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」視聴覚室  
~~~~~

【予告】第92回フォーラム 2015年5月28日（木）18:30～20:30  
「県内商工業の復興の現状と課題 ～営業損害賠償問題にも触れて～」(仮題)  
報告者：佐藤 敏文 氏（福島県商工会連合会広域指導課長）  
会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1  
~~~~~

【予告】第93回フォーラム 2015年6月11日（木）18:30～20:30  
「原発事故被災地における復興まちづくり計画」  
報告者：間野 博 氏（県立広島大学名誉教授  
・うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員／都市計画）  
会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1  
~~~~~

【予告】第94回フォーラム 2015年6月25日（木）18:30～20:30  
「県内水産業の現状と課題」(仮題)  
報告者：遠藤 和則 氏（相馬双葉漁業協同組合総務部長）  
会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1  
~~~~~